

【十一月の言葉（令和六年）】

私たちの中にある

「悪」を消すことはできない。

〈悪性あくせいしやうさらにやめがたし、こころは蛇蝎じやかくのごとくなり（正像末和讃）〉

ねた ささい

うまくいつている人を妬ねたんだり、些細な出来事で相手を許すことができなかつたり……。表面上はうまく取り繕つくろつていても、心の中には真つ黒いものが渦巻いている。そんな自分に嫌気いやけがさすということはありませんか。

親鸞は、「私たちが生まれた時から持っている悪性は無くせないものであり、心は毒のある蛇やサソリのようにである」といいます。そして「どんなによい行いをしたところで、煩惱という毒が混ざっているのです、それは偽りの行為なのである」と述べています。

だからと言って、よい行いをしないというのは浅はかです。自分の煩惱や弱さを抱えながら、よりよく生きる方法を見つけることもできるのです。

※蛇蝎じやかく＝へび、サソリ